



# 皇族に愛された 那須の自然

昭和天皇は、那須地域の植物採集と研究に取り組み、研究の成果をまとめた書物などの出版にも共著者として企画や校正に参加し、その業績を残されています。ご静養の際は植物図鑑や参考書を手元に、香淳皇后とともに御用邸の森を散策されていたといいます。前頁に掲載した序文のお言葉からも、那須の自然への愛着がよく伝わります。

平成に入ってから県立博物館によって御用邸の森の調査が行われ、そこには豊かで多様な自然環境が残されており、希少種をはじめ多くの動植物が生息、生育していることが確認されました。その豊かな自然を維持しつつ、国民が自然に直接ふれあえる場として活用してはどうかとの天皇陛下のお考えを受けて、御用邸地のおよそ半分にあたる約560haが宮内庁から環境省へと移管されます。それが、平成23年5月に開園した、日光国立公園「那須平成の森」です。

同園でセンター長を務める若林正浩さんに、御用邸の森について伺いました。

90年の時を経て  
御用邸で育まれた豊かな自然



那須平成の森フィールドセンター センター長 インタープリター 若林正浩さん

那須平成の森は、茶臼岳の北東の傾斜に沿いに広がっています。御用邸が造成される以前、この周辺は那須駒を放牧するための広大な牧草地でした。大正15年の御用邸造営とともに皇室用財産となり、自然を手つかずの状態にしたことで、今のこの豊かで多様な自然環境ができたと言えます。90年の月日を経て、草原に樹木が生え、花が咲き、その花に昆虫が集まり、やがてその花や虫を求めて鳥、そしてツキノワグマを頂点とする哺乳類たちも生息するようになったのです。

敷地内を流れる余笹川添いは「余笹新道」と呼ばれ、かつては昭和天皇も散策されていました。大人の両手で抱えきれないほどの古い樹木が立ち並び、とても神秘的な雰囲気、新たなこのルートが、那須平成の森のガイドウォークのプログラムになります。

昭和天皇ゆかりのルートはこの他に、昨年初に始まった「ロイヤルルート」があります。昭和天皇が休憩された「清森亭」に立ち寄り、御用邸の歴史と自然をゆっくり満喫することができます。



昭和天皇が休憩された清森亭 (写真提供 那須平成の森)



那須平成の森フィールドセンター

天皇皇后両陛下には平成23年の開園から平成30年まで毎年のようにフィールドセンターにお立ち寄りいただきました。お二人とも自然にとてもお詳しく、ご案内する我々インタープリターも、どんなことをお尋ねになられるか少し身構えてしまうほどです。また昨年は初めて、皇太子殿下、雅子さま、愛子さまにもお出でいただきました。「陛下に良い所なのでぜひ立ち寄るように言われました」と殿下はおっしゃって、ご家族で3時間ほどご滞在いただきました。

那須平成の森では、皇室の皆さまが愛された豊かな自然を、住民の方にも楽しんでいただけるよう、様々な取り組みを行っています。身近にある素晴らしい自然を体感してみてはいかがでしょうか。